

第4章 現状と課題

- 平成 30 年 11 月 26 日(月)、里中満智子さんに、明日香村から「飛鳥朱雀大使」委嘱状が交付された。また、里中氏が飛鳥時代を描いた天上の虹のラッピング電車「あすか万葉トレイン」が 2019 年に近鉄南大阪線、吉野線、長野線、御所線を走った。



写真 4-6 「飛鳥朱雀大使」に委嘱された
里中満智子氏

ラッピング電車「あすか万葉トレイン」
(出典：明日香村 近鉄 HP)

- 明日香村で 1999 年に明日香の魅力を伝えたいと地域作りの一環として村民によって立ち上げた劇団時空による定期公演や出前公演、各種イベントへの出演も行っている。



写真 4-7 神武祭オープニング「神武東遷」

飛鳥光の回廊における「飛鳥寺建立」

(出典：(一社) 飛鳥観光協会 HP)

- ・明日香村には、古事記・日本書紀の時代より受け継がれてきた伝統的な芸能がある。現在、村内の明日香村伝承芸能保存会（南無天踊り、八雲琴、飛鳥蹴鞠、万葉朗誦の4つの団体）がそれを復元し、継承に取り組んでいる。



写真 4-8 南無天踊り、八雲琴、飛鳥蹴鞠、万葉朗誦

(出典：明日香村伝承芸能保存会 HP)

第4章 現状と課題

表 4-2 明日香村での主なイベント（平成30年度）

項目	名称	内容	平成30年度開催時期												主催者				
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	明日香村	奈良県※	橿原考古学研究所	飛鳥資料館(奈良文化財研究所)	奈良県立万葉文化会館
特別展	万葉の装い-額田王から法皇、そして今へ-	1931に挙行された築織祭で使用された復元女性衣装(京都染織文化協会所蔵)を中心に、日本の装いについて様々な視点から展示	■	■															○
特別展	春季特別展	「あすかの原風景」をテーマにした展示会			■	■													○
展示	橿原考古学研究所付属博物館特別展示	春季特別展、速報展、秋季特別展、特別陳列を開催	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				○		
講座	かんたしい明日香まほろば講座	各テーマに基づいた講座を開催				■	■	■				■							○
企画展	夏季企画展	第9回写真コンテスト「飛鳥のいきもの」					■	■											○
特別展	漫画で語る古代大和	古代の山を題材とした漫画を集め「漫画で語る古代大和」と題し紹介					■	■	■	■	■	■	■						○
講座	子ども考古学講座	体験型の学習講座					■	■											○
シンポジウム	万葉古代学公開シンポジウム	「万葉集を訓んだ人々・人々の読んだ万葉集」をテーマとしたシンポジウム										■							○
イベント	飛鳥 光の回廊	ライトアップイベント										■	■						○
公演他	劇団時空	古代史をテーマにした演劇										■	■						○
見学会	飛鳥京苑地現地見学会	史跡・名勝 飛鳥京跡苑地第12次調査 現地説明会											■						○
特別展	秋季特別展	「よみがえる飛鳥の工房-日韓の技術交流を探る」											■	■					○
ツアー	水の信仰の里、青く明日香の祈りの女神と守りの女神たち	観光ボランティアガイドと歩く・なら観光ボランティアガイドと共に、解説を受けながら飛鳥を歩く催し。 奈良県観光ボランティアガイド連絡会主催 後援：歴史街道											■						○
講座	万葉古代講座	各テーマに基づいた講座を開催											■	■	■	■			○
特別展	冬の万葉日本画展 大亦親風「万葉集画撰」を辿る	歌人として、画家として活躍した大亦親風が手掛けた「万葉集画撰」を一挙に公開																■	○
特別展	飛鳥の考古学2018	2017年に飛鳥・藤原地域で行われた奈良文化財研究所の発掘成果を紹介。調査分析の進展が見られた土器遺跡などから出土した土器も展示																■	○
コンサート	万葉コンサート	奈良フィルハーモニー管弦楽団によるコンサート「万葉集やし空間～万又コンサート～」																■	○
体験	万葉衣装試着体験	「ワンコインで”きもの”を着よう」(12/1・1/26・2/16・3/2) 「万葉衣装 de 大宴身!!」(3/23・24)											■	■	■	■	■	■	○
コンクール展示	万葉子ども賞コンクール	第11回 万葉子ども賞コンクール表彰式(3/21) 万葉子ども賞コンクール入選作品展示(3/22～5/26)																■	○
特別展	近代美人画の精華 一坊広庵コレクションによる	コレクターとして著名な坊広庵の所蔵する近年発見された竹久夢二の《投票券》をはじめとした美人画と万葉文化館所蔵の「万葉日本画」とを合わせて展示																■	○
講座	講座「万葉をよむ」	万葉文化館職員が講師となり、万葉歌を順番に解説	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	○
特別展講演会イベント講座	記紀万葉プロジェクト 奈良県が発信する、現代と古代、古代と未来、そして、みなさんひとりひとりが楽しみながら、歴史とのつながりを実感するとりくみ ※各種、主催者は異なる	特別展やイベントなど各種主催者は異なる			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	○
ツアー	明日香ガイドツアー	明日香村観光協会主催 明日香村の史跡を巡る16のコースを観光ボランティアガイドの説明を受けながら巡る。常時受け付け可能。																	○
ガイドツール	バーチャル飛鳥京	タブレット端末を活用し、バーチャルで飛鳥時代の明日香を体感できる取り組み																	○
各種体験、イベント	国営飛鳥歴史公園 体験、イベント	里山あそび広場(5,10月) まるっと飛鳥体験(11月) 古代ガラス制作体験(通年) 吉都・飛鳥散歩(4月、5月、11月) キトラ古墳保存管理施設設置画公開(年4回程度)																	○
イベント項目合計			6	7	6	9	8	12	7	7	9	9	9	10	⑤	②	④	④	⑩

明日香村全体では、年間を通じて多くのイベント等の取り組みがなされているが、飛鳥宮跡に限ると、「飛鳥 光の回廊」の会場の一つとして使用されているほかは、目立った活用がされていない。これは、史跡の大半が未整備地で活用に大きな制限があることが理由と考えられる。

②明日香まると博物館づくりの取り組み

ア 教育旅行・民家ステイの推進

宿泊施設が少ない、飛鳥地方で、農家等を受入施設とし、農業体験や郷土料理などの体験プログラムを提供している。海外からの学生も受け入れを拡大しており、明日香村商工会などで構成される（一社）飛鳥大和ニューツーリズムが運営している。



写真 4-9 教育旅行・民間ステイの推進

イ EV車 Michimo の導入

2014年10月にEV車のレンタルサービスが開始され、飛鳥を知る・体験するためのツールとして活用されている。

EV車 Michimo	
営業時間	09:00-18:00
料金	1日：8,000円 3時間：3,000円（税抜）
利用方法	事前に予約および決済後、近鉄飛鳥駅前の営業所にて貸出
乗車定員	2名
運営	一般社団法人明日香村地域振興公社

明日香まると博物館構想は、明日香村全体を対象としており、飛鳥宮跡は拠点施設として位置づけられているが、現状ではほとんど活用はなされていない。イベントでの問題と同じく、史跡の大半が未整備地で活用に必要な制限があること、トイレや休憩所、来訪者に対する情報発信機能等、来訪者へのサービス施設がほとんど存在していないことが理由と考えられる。

なお、文化観光振興法に基づく地域計画として「明日香まると博物館地域計画」（明日香村）が令和2年11月に文化庁の認定を受けており、飛鳥宮跡の保存と活用が位置付けられている。

(5)整備の状況

①史跡の整備の状況

県有地において、飛鳥宮跡については内郭北東隅角部及び南東部のⅢ期遺構の史跡整備を実施している。

北東隅の整備は1972(昭和47)年度に行われ、内郭の北と東の大垣及び建物遺構柱位置に50cm程の高さの円柱を置き、さらにその間を低木の植栽でつなぎ、遺構表示をしている。さらに、この一画で井戸と周辺の石敷施設の復元をおこなっている。

南東部の整備は1994(平成6)年度に行われ、内郭一本柱塀と建物2棟、塀跡、石組溝を同様の方法で遺構表示している。建物外は張芝としている。

北東隅部の解説板は、旧名称の史跡伝飛鳥板蓋宮となっていて、その情報が古い。南東部の遺構表示、解説板は、専門的内容であり、知識の少ない来訪者への説明には適していない。

ア 内郭北東隅部(昭和47年度)

- ・内郭北面及び東面大垣、及び建物遺構2棟について、円柱(H500)及び低木植栽による遺構表示
- ・井戸の復元、石敷舗装
- ・解説板①



写真 4-10 内郭北東隅部の整備状況

(飛鳥宮跡活用基本構想(資料編)/H26.3)

イ 内郭南東隅部（平成6年度）

- ・内郭一本柱塀及び建物遺構2棟、塀跡、石組溝、張芝
- ・解説板②



写真 4-11 内郭南東隅部の整備状況

（出典：奈良県「飛鳥宮跡活用基本構想 資料編/H30.3」）

飛鳥宮跡は一部史跡整備により遺構表示がなされているが、知識に乏しい来訪者が宮跡全体を理解・把握するためには不十分な規模である。

また、整備時期も古く施設の劣化が目立つと共に、説明文も史跡の名称変更以前の「伝飛鳥板蓋宮跡」の情報のままで変更されていない。

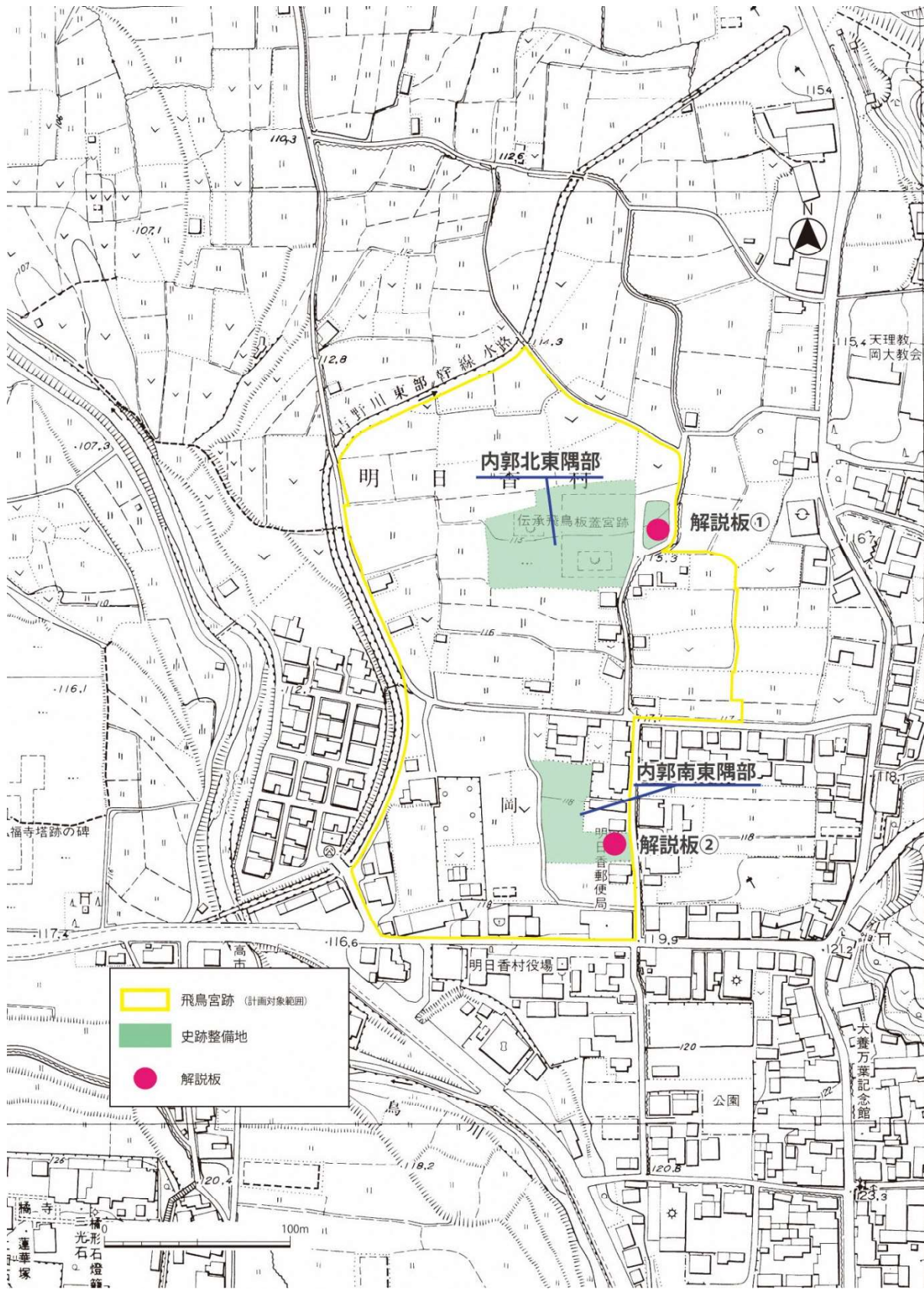


図 4-10 史跡整備の状況

2. 課題

(1)保存(保存管理)

飛鳥宮跡を活用していくためにも、今後、継続的な発掘と研究により、飛鳥宮跡の全貌を把握する必要がある。

そのため、計画的で継続的な発掘調査と研究を進め、その結果を基に史跡指定の拡大及び公有化を推進し、地下遺構を確実に保存するとともに、当該地区が有する歴史的風土の保全を図る必要がある。

①地区区分の再設定

2016（平成28）年に内郭部分を中心とした大規模な追加指定が行われ、史跡名称も変更となった。これに伴い、遺構の空間的配置状況を踏まえて保存管理区分を拡大した新たな地区区分の設定を行う必要がある。

②史跡の指定拡大

昭和47年4月に史跡指定されて以降、順次追加指定され、36,537.28㎡が指定されるに至っているが、飛鳥宮跡で最大の建物であるエビノコ郭など、まだ指定されていないエリアがある。

そのため、飛鳥宮跡の宮殿の全貌の把握を進めた上で、明らかとなった宮殿の範囲、性格を考慮し、史跡の指定拡大が必要である。

③公有化の推進

指定区域内は公有化されていない場所が存在しており、現状は農地・宅地等である。遺跡の確実な保存に向け、前項の史跡の指定拡大と連携した計画的な公有化の推進が求められる。

④開発行為等への対応

エビノコ郭をはじめ宮殿の重要な部分が市街化区域内に位置しており、今後も住宅の新築、増改築や土地造成等の開発行為が一定の件数、規模で実施されることが想定される。これら開発行為と地下遺構の保存を調整するために、市街化区域の見直しを含め、明日香村全体の土地利用計画の中でこの地域の位置付けを検討する必要がある。

⑤計画的な発掘調査・研究

昭和34年以降、50年以上にわたり発掘調査が行われてきており、これまでの発掘調査成果より、内郭中枢について上層遺構の建物配置の全貌が明らかになりつつある。一方で、内郭下層の遺構については、上層の遺構の保護との兼ね合いを含め、調査に際して慎重な対応が必要となる。さらに外郭については、範囲が確定していない部分がある。特に北限については、飛鳥寺跡と接することから、これら周辺遺跡との関係について、引き続き計画的な発掘調査・研究を実施し、解明を進めていく必要がある。